

6中保第 1024 号
令和6年11月12日

各県中地域医療構想調整会議構成員 様

福島県県中保健所長
(公印省略)

令和6年度第3回県中地域医療構想調整会議の書面開催について（通知）
日頃より、本地域の地域医療の推進に御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、有床診療所の2025年における対応方針が全ての有床診療所から提出されましたので、標記の会議を書面にて開催することといたしました。
つきましては、御多忙のところ恐縮ですが、別添の資料を御確認いただき、異議等がございましたら「別紙 異議等報告書」に御記入いただき、11月29日（金）までに下記のEメール又はFAXで御提出ください。
なお、異議等がなければ、「別紙 異議等報告書」の提出は不要で、合意いただいたとみなします。

記

1 議題

- (1) 有床診療所の2025年における対応方針について（資料1及び資料2）
異議等ありましたら、別紙1に異議等のある診療所名及び内容を記入してください。

2 その他（情報提供）

- (1) 病院及び有床診療所の病床数等（令和6年10月31日現在・資料3）
病床を有する県中医療圏の全ての医療機関より2025年における対応方針を提出いただきました。これらの対応方針を元にして、10月31日までの変更を反映し各医療機関の病床数等を集計しましたので、共有します。

3 報告先

- (1) Eメールアドレス iryouyakujiti-mu@pref.fukushima.lg.jp
(2) FAX番号 0248-75-7825

診療所の2025年における対応方針一覧(令和6年10月31日現在)

番号	病院名	R5.7.1 現行の 病床数 (総数)		・高 度 ・急 性 期		・回 復 期		・慢 性 期		・休 床		R7.7.1 現行の 予 定病 床数		病床機能の変更を予定する 場合、具体的な変更内容	診療科目	職員数	現在、自施設の担っている診療実績（令和4年度実績）	現在、自施設の担 っている政策医療（5疾 病事業、在宅医療）	現在、自施設の担 っている新興感染症等 対応	現在の他機関との連 携	現在の自施設の課題	R7年(2025)において 地域で担う役割	R7年(2025)において 地域内の他の医療機 関に果たしてほしい 役割	R7年(2025)、自施 設の担っている政策 医療（5疾病事業、 在宅医療）	R7年(2025)、自施 設の担っている新興感 染症等対応	R7年(2025)の他機 関との連携	R6(2024)からの働き 方改革への対応につ いて	建物の替え、改修 予定	高額医療機器の購入 予定	今後の自施設の課 題、不必要な、他医 療機関との連携希 望、など
		・高 度 ・急 性 期	・回 復 期	・慢 性 期	・休 床	・高 度 ・急 性 期	・回 復 期	・慢 性 期	・休 床	・高 度 ・急 性 期	・回 復 期	・高 度 ・急 性 期	・回 復 期																	
13	医療法人 崇教会 清水医院	15			15			15				15		なし。	外科・内科・循環器 科・消化器科・整形 外科・耳鼻咽喉科	・医師(常勤2人・非常勤1 人)・事務6人 ・看護師(常勤7人・非常勤2 人)・介護2人 ・理学療法士1人	休日診療20人、時間外診療15人、救急車の受け入れ23 件、周出入院基本料2、平均在院日数60、在院患者延 べ数2,725人	がん、急性及び慢 性心疾患、糖尿病、 入院患者の受け入れ、在宅医療など 担っている。	インフルエンザライ ルス・コロナウイル ス感染症の対応のみ	一次救急の役割を 担い、2次、3次救 急は郡山市の病院 へ。	医療と福祉を取り 巻く環境の中で、現 状の体制を維持する ために医療技術の 向上を目指して いる。又、社員教 育、従業員の定着 率を上げる体制を 整える。地域医療 需要の減少に備え ての体制をかけて いる。	がん、急性・慢 性期の心疾患、高齢者 における慢性疾患等 、在宅医療の促進、 一次救急における役 割を担っていく。	夜間帯や休日の診 療をかかりつけ医と しての役割を果たして ほしいと願いま す。	同上	同上	同上	現状の体制を維持 する。	なし。	なし。	なし。
14	こじま眼 科	5	5		5	5							なし	眼科	12名 医師2名 看護師4名(正看2名、准看2 名)・視能訓練士1名 医療事務5名	平均在院日数10	眼科の為受け入れ ていない	当院で治療困難な 患者様は南東北病 院、太田西/内病 院etcへ紹介してい る	看護師、視能訓練 士の人材確保が難 しいこと	田村市では眼科医 が不足している地 域で、引きつづき地 域医療を担っていく方 針	田村市では眼科医 が不足している地 域で、引きつづき地 域医療を担っていく方 針	眼科なので受け入 れは困難	引きつき連携して 看護師、視能訓練 士の人材確保に努 めます	なし	手術用顕微鏡の購 入を予定している	人口減少による更 なる人材確保を心 配している				
15	医療法人 健山谷会 船引クリ ニック	14			14	14							予定なし	内科・整形外科・消 化器科・他	医師 常勤3名、歯科医師2 名・非常勤2名 看護師 常勤5名・非常勤2 名 理学療法士、作業療法士 5 名	0件	外来患者さんの急 性期、慢性期疾患 の治療、往診をする 在宅医療など	入院の必要がない 軽症から中等度の 患者さんの受け入 れ	手術など入院が必 要な患者さんは郡 山や磐梯川や二本 松にある大きな病 院に紹介している 手術を受け入れ、外 来は周辺の病院と連携して 急性期、慢性期の 患者さんの治療をし ていいく	介護を要する患者 さんは施設で受け入 れ、外來は周辺の 病院と連携して 急性期、慢性期の 患者さんの治療をし ていいく	同上	田村市内に手術や 入院での加療がで きる病院が欲しい	在宅医療を田村 市、郡山市を中心 に拡大していく 外來で対応できる 軽症患者さん以外 の受け入れ	2次救急以上は他 の大きな医療機関 へ紹介し、入院加 療が終了した患者 さんを外来または 施設で受け入れを する	現状の医療准拠体 制が維持できるよう に医療用ハミングバ ルの人員の確保が必 要	なし	未定	特記なし		
16	田村市立 都路診療 所	19			19	19							変更の予定なし	内科・整形外科	・医師 常勤 1人 ・非常勤 0.2人 ・看護師 常勤 3人 ・非常勤 0.8人 ・診療放射線技師 常勤 1 人 ・事務員 常勤 1人 ・バス運転手 非常勤 0.8 人 ・令和6年度 入院休止申 ・令和4年度 入院実績はなし、 ・外来診療212日、受診者数4,562人、21.5人/日	・へき地医療(在宅 医療)を担っている。	・発熱外来	・在宅患者や外来 患者のうち入院を 必要とする患者は、 たむら市民病院へ 紹介する。 ・緊急性のある患者 は、星総合病院へ 紹介する。	・外診療を中心に 患者の健康管理を 継続する。 ・通勤困難患者は 訪問診療により状 態を観察する。 ・スタッフの 教育訓練も行って いない。	・外診療を中心に 実施する患者は急 速した際の入院受 入(特に土日・時間 外)	・へき地医療(在宅 医療)	・発熱外来	・基幹病院として位 置づける星総合病 院と当所の後方支 援を担う。 ・たむら市民病院と の連携を図る。 (基本的には) ・在宅患者や外來 患者のうち入院を 必要とする患者は、 たむら市民病院へ 紹介する。 ・緊急性のある患者 は、星総合病院へ 紹介する。	・入院は休止中の ため、日直・当直は 行わない。 ・予約制を導入し、 患者受診の偏在を 調整している。	・建物は30年以 上経過しているが、建 替える時期は未 定。	・空き家となっ てある医師住宅(1棟) の解体予定。	・今後5年間は、購 入及び更新の予定 あると予想してい る。 ・土日・時間外の施 設入所者や在宅患 者への対応につい て、 ・園内の医療機関 と密に連携してゆき たい。			
17	石塚医院	18			18	18							18 看護師数が足り れば解消する	内科・小児科	5名	一般外来、発熱外来のみ	なし	発熱外来(医療指 定協定済)	公立小野地方総合 病院	看護師不足	かかりつけ医として	なし	なし	不明	なし	なし	医師の高齢化			
18	医療法人 青鶴会 すすきレ ディースク リニック	19	19		19	19							なし	産科・婦人科	医師 常勤1名 非常勤7名 助産師11名 看護師5名 看護助手2名 医療事務5名 主に低リスク妊娠婦の妊娠、分娩管理、一般婦人科診 療 令和4年度(4月～翌3月) 分娩件数 562件 うち帝王切開 69件 平均外来患者数 38.5人/日	現在常勤医師1名 で診療を行ってお り、医師の負担が 大きい。数か月以 て常勤医師の増 員を予定している。 また、看護師、助産 士も子育てしながら 働いている職員 が多く、勤務などの 負担が大きい。人 員を増員したいが、 	太田西ノ内病院、 寿泉会総合病院、 総合病院、 南東北病院、 井手 病院、 公立岩瀬病 院、 福島県立医療 大学附属病院と連 携して診療	低リスク妊娠の妊 娠、分娩管理およ び一般婦人科診療	ハイリスク妊娠の妊 娠、分娩管理、手術 をする患者の婦 人科診療	現在特に変更の 予定はない	既に宿日直許可を 取っている。常勤医 師の増員や忙化に よる診療の効率化、 併せて医師以 外の看護事務者、 医療事務などの効 率化、生産性の工 場を図りたい。	既に宿日直許可を 取っている。常勤医 師の増員や忙化に よる診療の効率化、 併せて医師以 外の看護事務者、 医療事務などの効 率化、生産性の工 場を図りたい。	令和5年度の補助 金にて保育器、イン フレントウォーマー を購入予定。現段 階で、当院で保育器2台、 インフレントウォーマー1台で て運用しているが、 今後も1台で運用す るが、もしも開院時 に他院から譲渡さ れたものである。来 年度以降も更新が 必要であり、更新に 多額の費用がかかる 。長期的には少 子化、分娩数の減 少による経営の不 透明性が問題。令 和7年度以降分娩 の保険適応が予定 されており、それら が経営に与える影 響が不明。							
合計		265	0	163	0	34	68	248	0	163	0	34	51		R5.7.1現在との増減数	-17	0	0	0	0	-17									

資料2

有床診療所の2025年における対応方針

令和6年9月作成
病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		医療法人 八木眼科医院	
R5.7.1現在の病床数(総数)	8	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	8
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	8	・急性期	8
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容		なし	
診療科目(令和 6年 9月 30日現在)		眼科	
職員数(令和 6年 9月 30日現在)		医師 常勤1.0人 非常勤0.2人 受付 常勤2名 非常勤3名	看護師 常勤5人
現在(令和 6年 9月 30日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和4年度実績)		入院による治療は、希望者の白内障の予定手術のみ対応している。 夜間時間外診療は受け入れていない。 地域の休日診療は当番時に対応している。	
現在(令和 6年 9月 30日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		なし	
現在(令和 6年 9月 30日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応		なし	
現在(令和 6年 9月 30日現在)の他機関との連携		眼科における眼科一般診療を行っている 症例によっては下記の総合病院へ紹介し対応している	
現在(令和 6年 9月 30日現在)の自施設の課題		特になし	
R7年(2025)において地域で担う役割		定められた診療時間内での眼科の一般診療を行う。入院治療の必要な症例については眼科病棟のある総合病院（南東北病院、太田西ノ内病院、寿泉堂病院等）へ紹介している。当番時の休日診療も継続して行っていく	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		現状は特になし	
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		眼科のためなし	
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応		科の特性上（眼科）のため、基本的に当該疾患への初期対応は行っていない。	
R7年(2025)の他機関との連携		眼科の一般診療がメインのため、緊急入院の必要性がある症例は上記の総合病院へ紹介している	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		現状では医師およびスタッフともに、働き方改革には対応・遵守できている	
建物の建替え, 改修予定		なし	
高額医療機器の購入		なし	
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など		なし	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		郡山整形外科・リハビリテーション科	
R5.7.1現在の病床数(総数)	19床	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	19床
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期		・急性期	
・回復期		・回復期	
・慢性期	19床	・慢性期	19床
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	病床変更の予定はない		
診療科目(令和6年9月24日現在)	整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科		
職員数(令和6年9月24日現在)	・医師 常勤1名 ・看護師 常勤8名 ・看護補助 常勤1名 ・理学療法士 常勤5名 ・事務職員3名		
現在(令和6年9月24日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	・病棟：入院基本料Ⅰ、平均在院日数 200日 ・稼働率100% ・外来：延べ数2386人(年間) 実人数740人(年間)		
現在(令和6年9月24日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	なし		
現在(令和6年9月24日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	なし		
現在(令和6年9月24日現在)の他機関との連携	一次救急のみ行き、二次救急が必要な患者は、近隣の西ノ内病院や寿泉堂病院へ依頼している。		
現在(令和6年9月24日現在)の自施設の課題	診療報酬の収入増が難しい。建物の老朽化。		
R7年(2025)において地域で担う役割	日常的な健康問題を診察・治療すること。また予防医療や健康増進を行っていく。		
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	スムーズな患者紹介。		
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	なし		
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	特になし		
R7年(2025)の他機関との連携	現状を継続して行きたい。		
R6(2024)からの働き方改革への対応について	現状の医療体制を維持していく。		
建物の建替え、改修予定	なし		
高額医療機器の購入	なし		
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	建物の老朽化。		

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		医療法人 たなかレディースクリニック	
R5.7.1現在の病床数(総数)	12	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	12
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	12	・急性期	12
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床	0	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容		変更予定なし	
診療科目(令和6年7月26日現在)		産婦人科	
職員数(令和6年7月26日現在)		医師：常勤2名 助産師：常勤8名 非常勤1名 看護師：常勤5名 非常勤2名 事務員：常勤3名 看護助手：常勤1名 非常勤1名 給食担当：常勤3名 非常勤2名	
現在(令和6年7月26日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)		分娩 202件 (うち帝王切開10件) 外来患者平均60人/日 病棟平均在院日数5.0	
現在(令和6年7月26日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		保険医療機関 母体保護法指定医お配置されている医療機関	
現在(令和6年7月26日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応		軽症で妊婦の検査・投薬のみ実施 褥婦・新生児が入院しているため重症患者の受け入れ不可	
現在(令和6年7月26日現在)の他機関との連携		1次救急のみ その他は県内の2次か3次医療機関へ紹介	
現在(令和6年7月26日現在)の自施設の課題		少子化にともなう分娩数の減少に対する対策 妊娠・分娩管理と産後のケアに力を入れたい	
R7年(2025)において地域で担う役割		女性のヘルスケア(思春期から高齢者まで)に関する相談など	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		妊婦や褥婦の内科疾患を管理してほしい	
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		現在と同じ	
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応		重症患者保受け入れは不可 軽症患者も妊婦のみの対応	
R7年(2025)の他機関との連携		現在と同じ	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		特になし	
建物の建替え、改修予定		なし	
高額医療機器の購入		なし	
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など		産科疾患以外(感冒など)で妊婦の診療を拒否する施設があること 産科も含めて緊急搬送に時間がかかること	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名	南東北眼科クリニック		
R5.7.1現在の病床数(総数)	18	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	18
・高度急性期	0	・高度急性期	0
・急性期	18	・急性期	18
・回復期	0	・回復期	0
・慢性期	0	・慢性期	0
・休床	0	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	0
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	グループ病院である総合南東北病院が2027年7月をめどに新病院建築に向けて活動中であり、南東北眼科クリニックを含むグループ内複数施設の統合を計画しています。医療資源の集約化を図り、高度急性期から回復期まで幅広く展開し、今まで以上に地域との連携を推進していく計画となっています。		
診療科目(令和5年11月1日現在)	眼科、内科、外科、形成外科、皮膚科、放射線治療科		
職員数(令和5年3月1日現在)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師 4. 8 人 ・看護職員 16. 0 人 ・看護補助者 4. 8 人 ・専門職 12. 0 人 ・事務職員 5. 5 人 		
現在(令和5年11月1日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ・休日に受診した患者延べ数：2人 ・夜間時間外に受診した患者延べ：3人 ・救急車の受入れ件数：0人 ・病棟毎届出入院基本料 有床診療所入院基本料1 ・平均在院日数 1. 6 日 ・病床稼働率 58. 4 % 		
現在(令和5年11月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	無し		
現在(令和5年11月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	自施設にて発生した患者への対応		
現在(令和5年11月1日現在)の他機関との連携	眼科手術目的の患者紹介		
現在(令和5年11月1日現在)の自施設の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・他施設連携の強化 専門性を有する施設として地域貢献すると共に他のクリニックや医院との連携を強化し、患者さんへの最良の選択を提案・提供すること。 ・関連施設の再編 総合南東北病院の新病院新築移転に合わせた病床移動及び統合 		
R7年(2025)において地域で担う役割	・従来から担っている専門的治療(眼科領域疾患)の急性期医療体制の充実		
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	現在同様に、急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機関の整備を進めて欲しい		
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	無し		
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	自施設にて発生した患者への対応		
R7年(2025)の他機関との連携	眼科領域における治療施設としての機能を維持。		
R6(2024)からの働き方改革への対応について	A水準内に収まるよう取り組みを進めている。		
建物の建替え、改修予定	2027年7月に総合南東北病院との統合、新病院を開設すべく活動中。		
高額医療機器の購入	無し		
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など			

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		医療法人慈繁会付属トータルヘルスクリニック	
R5.7.1現在の病床数(総数)	15	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	15
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	15	・急性期	15
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	—		
診療科目(令和6年9月1日現在)	内科、産婦人科、外科、小児科、消化器内科、循環器内科、リハビリテーション科		
職員数(令和6年9月1日現在)	・ 医師 常勤2人、非常勤14人 ・ 看護師 常勤25人（助産師9人、保健師1人、看護師10人、准看護師5人）、非常勤5人（助産師2人、看護師2人） ・ その他 診療放射線技師・理学療法士等 23人		
現在(令和6年9月1日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	・ 病棟（有床診療所入院基本料）：産科の運用 令和4年度分娩数321件。 ・ 外来：かかりつけ医として、地域住民の健康管理・診療の実施。 妊婦が安心安全に出産できる母体管理等の実施。		
現在(令和6年9月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	住民健診・県民健康調査等、積極的に受け入れている。		
現在(令和6年9月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	令和6年6月、県から「第二種協定指定医療機関」指定。		
現在(令和6年9月1日現在)の他機関との連携	専門的な治療よとする症例又は救急対応が必要な場合は、専門外来・二次救急医療機関へ紹介している。その後の逆紹介に対応している。		
現在(令和6年9月1日現在)の自施設の課題	—		
R7年(2025)において地域で担う役割	引き続き、かかりつけ医としての診療及び安心して出産ができる医療機関としての役割を継続する。		
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	—		
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	—		
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	令和6年6月、県から「第二種協定指定医療機関」指定。		
R7年(2025)の他機関との連携	—		
R6(2024)からの働き方改革への対応について	令和6年6月、「継続的な宿直又は日直勤務許可書」取得。		
建物の建替え、改修予定	令和8年4月に産婦人科、小児科について新築移転予定。内科、外科、消化器内科、循環器内科、リハビリテーション科については現在地にて診療継続予定。		
高額医療機器の購入	—		
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	—		

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名	ぐっすくりーぷクリニック		
R5.7.1現在の病床数(総数)	1	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	1
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	1	・急性期	1
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	検査入院のための病床であるため、外来で検査が行える体制を整えることができれば病床は廃止の方向で検討している。		
診療科目(令和6年9月24日現在)	呼吸器内科、内科		
職員数(令和6年9月24日現在)	医師1名（常勤1名）、看護師1名（常勤1名）、臨床検査技師2名（常勤2名）、事務員3名（常勤2名、非常勤1名）		
現在(令和6年9月24日現在)、自施設の担っている診療実績（令和4年度実績）	平均在院日数 2、稼働率 0.47		
現在(令和6年9月24日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	睡眠時無呼吸症候群の診療を主に行っており、診断のための検査入院を行っている。		
現在(令和6年9月24日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	新興感染症に対しては受け入れる体制が整っていないため、対応していない。		
現在(令和6年9月24日現在)の他機関との連携	当院で対応できない患者については、太田西の内病院、南東北病院、寿泉堂病院、星病院と連携して対応している。		
現在(令和6年9月24日現在)の自施設の課題	睡眠時無呼吸症候群以外の疾患については、マンパワーの問題などで対応が現状では困難であるため、今後の診療体制の拡充などを検討する余地がある。		
R7年(2025)において地域で担う役割	睡眠時無呼吸症候群を専門に地域医療に貢献しているかと思う。		
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	より緊密な連携を図っていきたい。		
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	診療体制が拡充できれば生活習慣病などの疾患にも対応したい。		
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	新興感染症に対しては受け入れる体制が整っていないため、対応していないと思われる。		
R7年(2025)の他機関との連携	現状の体制を維持していきたい。		
R6(2024)からの働き方改革への対応について	働き方改革への対応はできていると考える。		
建物の建替え、改修予定	予定はない。		
高額医療機器の購入	予定はない。		
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	定期通院患者の紹介などを通じて他医療機関との更なる連携が必要と思われる。診療体制の拡充のためには医師などの補充が前提となる。		

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		医療法人 美術館通りクリニック	
R5.7.1現在の病床数(総数)	17	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	0
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期		・急性期	
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床	17	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	令和5年10月に病床数を0にする予定です		
診療科目(令和5年10月2日現在)	内科 産婦人科		
職員数(令和5年10月2日現在)	医師 常勤2名 看護師 常勤2名 非常勤1.8名		
現在(令和5年10月2日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	休床中のため入院患者は0です 休日診療、夜間診療は行っていません		
現在(令和5年10月2日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	行っていません		
現在(令和5年10月2日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	休床中の為、受け入れていません		
現在(令和5年10月2日現在)の他機関との連携	休床中の為、入院患者を受け入れていません		
現在(令和5年10月2日現在)の自施設の課題	病床数を0にする手続き予定です		
R7年(2025)において地域で担う役割	病床数が0になるので役割は担えません		
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	特にありません		
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	特にありません		
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	特にありません		
R7年(2025)の他機関との連携	特にありません		
R6(2024)からの働き方改革への対応について	特にありません		
建物の建替え、改修予定	予定はありません		
高額医療機器の購入	予定はありません		
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	特にありません		

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名	医療法人宣誠会 古川産婦人科		
R5.7.1現在の病床数(総数)	19	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	19
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	19	・急性期	19
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容			
診療科目(令和 5年11月14日現在)	産婦人科		
職員数(令和 5年11月14日現在)	・ 医師 常勤2名 非常勤 0.5名 ・ 助産師 常勤6名 非常勤 0.5名 ・ 看護師 常勤5名 非常勤 0名 ・ 准看護師 常勤3名 非常勤 0.7名		
現在(令和 5年11月14日現在), 自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	・ 一般病棟 (有床診療所入院基本料 I 平均在院日数 4.0日 病床稼働率 36%)		
現在(令和5年11月14日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	ローリスク妊婦の周産期医療を担っている。		
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応			
現在(令和 5年11月15日現在)の他機関との連携	ハイリスク妊婦の2次病院、地域周産期センターへの紹介		
現在(令和 5年11月15日現在)の自施設の課題	出生数の減少により、地域の分娩施設の需要の減少が見込まれることから、現状の体制を維持するべきか否か検討が必要		
R7年(2025)において地域で担う役割	ローリスクの分娩を担う役割		
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割			
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	ローリスク妊婦の周産期医療を担っている。		
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応			
R7年(2025)の他機関との連携	ハイリスク妊婦の地域周産期センターへの紹介		
R6(2024)からの働き方改革への対応について	理事長・理事の医師が月～金曜日に宿日直を行い、土・日に外部医師の宿日直をお願いするようにした。 (労働基準監督署の宿日直許可を取得)		
建物の建替え, 改修予定	予定なし		
高額医療機器の購入	予定なし		
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	分娩数の減少により経営状況が厳しくなってきている。 医療機器の更新が進まず機器が老朽化してきている。 2026年度からの出産費用の健康保険適用化が検討されている。		

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		医療法人 仁正会 塚原産婦人科内科・外科医院	
R5.7.1現在の病床数(総数)	15	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	15
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	15	・急性期	15
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容			
診療科目(令和6年7月 1日現在)		産婦人科・内科・外科・小児科	
職員数(令和6年7月1日現在)		医師 常勤 1名 看護師 常勤 3名 事務員 常勤 3名	
現在(令和6年7月1日現在), 自施設の担っている診療実績 (令和4年度実績)		婦人科・産婦人科 (妊娠健診等含む) 人工中絶手術 施設健診 (子宮頸がん検診・骨粗鬆症・B型肝炎・前立腺がん検診) 委託子宮頸がん検診 健康医診断 内科 (慢性疾患・急性期症状・発熱外来) 外科 外傷処置 小児科 予防接種 感冒症状 令和4年度 外来患者延べ人数13,773名 人工中絶手術 (1日入院) 54件	
現在(令和 6年7月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		なし	
現在(令和6年7月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応		発熱外来のみ	
現在(令和6年7月1日現在)の他機関との連携		入院を必要とする患者に対して、総合病院と連携して対応をしている。	
現在(令和6年7月 1日現在)の自施設の課題		産婦人科の診療所は少ないため、セミオーブンシステムを理解し利用していただくにはどうしたらいいのか。 企業等からの子宮頸がん検診等を増やすにはどうしたらいいのか。	
R7年(2025)において地域で担う役割		診療・検診等がスムーズに対応できるよう体制にを整える。	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		無し	
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		無し	
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応		発熱外来のみ	
R7年(2025)の他機関との連携		入院・手術を必要とする患者に対して、総合病院と連携して対応をしている。	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		常勤医師 1名の体制のため、現状維持を確保していく。	
建物の建替え, 改修予定		無し	
高額医療機器の購入		無し	
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など			

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 南東北がん陽子線治療センター	
R5.7.1現在の病床数(総数)	19	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	19
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	19	・急性期	19
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	変更なし		
診療科目(令和5年9月1日現在)	放射線治療科・脳神経外科・泌尿器科・外科・内科・耳鼻咽喉科・胸部外科・呼吸器内科・消化器内科・婦人科		
職員数(令和5年9月1日現在)	・医師 常勤3人 非常勤2.3人 ・看護師18名 放射線技師18名 ・医学物理士3人 ・事務14名		
現在(令和5年9月1日現在), 自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	<p>・届出 有床診療所入院基本料1、医師配置加算1、看護配置加算1、夜間看護配置加算1、看護補助配置加算1、看取り加算、有床診療所一般病棟初期加算、明細書発行体制等加算、患者サポート体制充実加算、入院時食事療養（I）、がん性疼痛緩和指導管理料、入院時生活療養（I）、がん治療連携指導料、医療機器安全管理料2、CT撮影及びMRI撮影、粒子線治療、粒子線治療適応判定加算、粒子線治療医学管理加算、先進医療A（陽子線治療） 平均在院日数25.8日 ・病床稼働率88.7%</p>		
現在(令和5年9月1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	がんなど		
現在(令和5年9月1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	当センターのがん治療患者のみ		
現在(令和5年9月1日現在)の他機関との連携	総合南東北病院と連携（隣接している）		
現在(令和5年9月1日現在)の自施設の課題	経年劣化により再建設が必要。4年後に総合南東北病院と合併し新病院の建設が進んでいる。		
R7年(2025)において地域で担う役割	さまざまな理由で手術ができない、治療の選択肢が限られている、手術や入院は避けたいなどの患者さんへのがん治療の選択肢の一つとして担う。		
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果してほしい役割	陽子線治療後のフォロー		
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	がん治療		
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	当センターのがん治療患者のみ		
R7年(2025)の他機関との連携	総合南東北病院と連携（隣接している）		
R6(2024)からの働き方改革への対応について	医師及び看護師、放射線技師の増員確保。		
建物の建替え, 改修予定	予定期 開院基本設計段階 2027年完成予定		
高額医療機器の購入	新病院に合わせ陽子線治療装置2台設置予定		
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	治療患者の増加傾向に伴い、医師、看護師、放射線技師を確保したいが困難。		

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		医療法人エイレイテュイア 岡崎バースクリニック	
R5.7.1現在の病床数(総数)	19床	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	19床
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	19床	・急性期	19床
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容		特にございません。	
診療科目(令和 6年 6月 30日現在)		産科、婦人科、内科、小児科	
職員数(令和 6年 6月 30日現在)		・医師（常勤2名、非常勤7名）・助産師（常勤15名、非常勤1名） ・看護師（常勤7名）・管理栄養士（1名）	
現在(令和 4年 3月 31日現在), 自施設の担っている診療実績（令和4年度実績）		・入院基本料1 ・平均在院日数 5.6日 ・病床稼働率 76.9%	
現在(令和 6年 6月 30日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		・育成医療等の提供に関する取組みについて、妊産婦等への保健施策としての産後ケア事業の推進。 ・学校教育及び生涯学習を通した妊娠・出産等に関する医学的・科学的に正しい知識の普及・啓発活動。	
現在(令和 6年 6月 30日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応		第二種協定指定医療機関として、福島県より新型インフルエンザ等感染症等に係る発生の公表が行われた時から、必要な措置を迅速かつ的確に講ずること。	
現在(令和 6年 6月 30日現在)の他機関との連携		太田西ノ内病院や星総合病院等と機能分担し、リスクに応じた施設間連携を図っている。	
現在(令和 6年 6月 30日現在)の自施設の課題		小児科等の診療科の充実を図るための専門医の確保。	
R7年(2025)において地域で担う役割		多くの妊婦が最初に受診する一次施設として、地元で安心して出産できる環境をつくり、また、地域に分娩場所を提供する役割を担っている。	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		高次医療機関のNICU等の施設及び専門医師の充実	
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)		今年度に引き続き、産後ケアの積極的展開と妊娠、出産に関する正しい知識の普及・啓発活動の推進を図る	
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応		今年度と同様に、第二種協定指定医療機関として、新型インフルエンザ等感染症等の発生時に、必要な措置を迅速かつ的確に講ずること。	
R7年(2025)の他機関との連携		高次医療機関との機能分担により、リスクに応じた施設間連携体制の維持を図る。	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		各担当職の業務内容の洗い出しによるタスクシフト/タスクシェアの推進と、好事例分析による更なる進展に努めた。	
建物の建替え, 改修予定		特にございません。	
高額医療機器の購入		必要に応じた機器の買い換え購入程度。	
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など		小児科等の診療科の充実を図るための専門医の確保等が課題であり、近隣の医療機関と話し合いたい	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		今泉須賀川医院（眼科）	
R5.7.1現在の病床数(総数)	13床	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	13床
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	13床	・急性期	13床
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床	無	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	変更なし。		
診療科目(令和 5年 10月 1日現在)	眼科		
職員数(令和 5年 10月 1日現在)	・ 医師 常勤2名、看護師4名、准看護師1名、視能訓練士4名、事務員6名		
現在(令和 5年 10月 1日現在), 自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	日帰り入院（主に白内障手術）166名（令和4年度実績）		
現在(令和 5年 10月 1日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	急性期		
現在(令和 5年 10月 1日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応	眼科専門		
現在(令和 5年 10月 1日現在)の他機関との連携	特に無し。		
現在(令和 5年 10月 1日現在)の自施設の課題	施設が老朽化しており、空調設備工事、配管改善工事を検討中。		
R7年(2025)において地域で担う役割	急性期		
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	特になし。		
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾病5事業, 在宅医療)	特になし。		
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応	眼科専門		
R7年(2025)の他機関との連携	特になし。		
R6(2024)からの働き方改革への対応について	人材確保が課題。		
建物の建替え, 改修予定	未定		
高額医療機器の購入	未定		
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	建物設備等の改修予定。		

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		医療法人崇敬会 清水医院	
R5.7.1現在の病床数(総数)	15	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	15
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期		・急性期	
・回復期		・回復期	
・慢性期	15	・慢性期	15
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	なし。		
診療科目(令和6年9月30日現在)	外科・内科・循環器科・消化器科・整形外科・耳鼻咽喉科		
職員数(令和6年9月30日現在)	・医師（常勤2人・非常勤1人）・事務6人 ・看護師（常勤7人・非常勤2人）・介護2人・理学療法士1人		
現在(令和6年9月30日現在)、自施設の担っている診療実績（令和4年度実績）	休日診療20人、時間外診療15人、救急車の受入23件、届出入院基本料2、平均在院日数60、在棟患者延べ数2,725人		
現在(令和6年9月30日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	がん、急性及び慢性心疾患、糖尿病、入患者の受け入れ、在宅医療など坦っている。		
現在(令和6年9月30日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	インフルエンザウイルス・コロナウイルス感染症の軽症者のみ対応。		
現在(令和6年9月30日現在)の他機関との連携	一次救急の役割を担い、2次、3次救急は郡山市の病院へ。		
現在(令和6年9月30日現在)の自施設の課題	医療と福祉を取り巻く環境の中で、現状の体制を維持するために医療技術の向上を目指している。又、社員教育、従業員の定着率を上げる体制を整える。地域医療需要の減少に歯止めをかける。		
R7年(2025)において地域で担う役割	がん、急性・慢性期の心疾患、高齢者における慢性疾患等、在宅医療の促進、一次救急における役割を担って行く。		
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果してほしい役割	夜間帯や休日の診療をかかりつけ医としての役割を果たしてほしいと願っています。		
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	同上		
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	同上		
R7年(2025)の他機関との連携	同上		
R6(2024)からの働き方改革への対応について	現状の体制を維持する。		
建物の建替え、改修予定	なし。		
高額医療機器の購入	なし。		
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	なし。		

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		こじま眼科	
R5.7.1現在の病床数(総数)	5	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	5
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期	5	・急性期	5
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床		・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	なし		
診療科目(令和5年10月1日現在)	眼科		
職員数(令和5年10月1日現在)	12名 医師2名 看護師4名(正看2名、准看2名) 視能訓練士1名 医療事務5名		
現在(令和5年10月1日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	平均在院日数10		
現在(令和年月日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)			
現在(令和5年10月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	眼科の為受け入れていない		
現在(令和5年10月1日現在)の他機関との連携	当院で治療困難な患者様は南東北病院、太田西ノ内病院etcへ紹介している		
現在(令和5年10月1日現在)の自施設の課題	看護師、視能訓練士の人材確保が難しいこと		
R7年(2025)において地域で担う役割	田村市では眼科医が不足しているので、引きつづき地域医療を担っていく方針		
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割			
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)			
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	眼科なので受け入れは困難		
R7年(2025)の他機関との連携	引きつづき連携していく		
R6(2024)からの働き方改革への対応について	看護師、視能訓練士の人材確保に努力する		
建物の建替え、改修予定	なし		
高額医療機器の購入	手術用顕微鏡の購入を予定している		
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	人口減少による更なる人材確保を心配している		

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		医療法人健山会 船引クリニック	
R5.7.1現在の病床数(総数)	14	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	14
・高度急性期		・高度急性期	
・急性期		・急性期	
・回復期		・回復期	
・慢性期		・慢性期	
・休床	14	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	14 コロナ感染増加傾向のため継続 コロナの状況により来年度再開の見通し
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	予定なし		
診療科目(令和6年7月26日現在)	内科、整形外科、消化器科、他		
職員数(令和6年7月26日現在)	医師 常勤3名 歯科医師2名 非常勤2名 看護師 常勤5名 非常勤2名 理学療法士、作業療法士 5名		
現在(令和6年7月26日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	0件		
現在(令和6年7月26日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	外来患者さんの急性期、慢性期疾患の治療、往診をする在宅医療など		
現在(令和6年7月26日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応	入院の必要がない軽症から中等度の患者さんの受け入れ		
現在(令和6年7月26日現在)の他機関との連携	手術など入院が必要な患者さんは郡山や須賀川や二本松にある大きな病院へ紹介している		
現在(令和6年7月26日現在)の自施設の課題	介護を要する患者さんを施設で受け入れ、外来は周辺の病院と連携して急性期、慢性期の患者さんの治療をしていく		
R7年(2025)において地域で担う役割	同上		
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	田村市内に手術や入院での加療ができる病院が欲しい		
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)	在宅医療を田村市、郡山市を中心に拡大していく		
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応	外来で対応できる重症患者さん以外の受け入れ		
R7年(2025)の他機関との連携	2次救急以上は他の大きな医療機関へ紹介し、入院加療が終了した患者さんを外来または施設で受け入れをする		
R6(2024)からの働き方改革への対応について	現状の医療進歩体制が維持できるように医師やパラメディカルの人員の確保が必要		
建物の建替え、改修予定	なし		
高額医療機器の購入	未定		
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など	特記なし		

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		田村市立都路診療所	
R5.7.1現在の病床数(総数)	19	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	19
・高度急性期	0	・高度急性期	0
・急性期	7	・急性期	7
・回復期	0	・回復期	0
・慢性期	12	・慢性期	12
・休床	有り(19床)	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	有り(19床、数年以内に開設予定の市民病院へ移行する予定)
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容		変更の予定なし	
診療科目(令和6年7月1日現在)		内科・整形外科	
職員数(令和6年7月1日現在)		・医師 常勤 1人、非常勤 0.2人 ・看護師 常勤 3人、非常勤 0.8人 ・診療放射線技師 常勤 1人 ・事務員 常勤 1人、バス運転手 非常勤 0.8人	
現在(令和6年7月1日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)		・令和6年度 入院休止中 ・令和4年度 入院実績はなし、 外来診療212日、受診者数4,562人、21.5人/日	
現在(令和6年7月1日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		・へき地医療(在宅医療)を担っている。	
現在(令和6年7月1日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応		・発熱外来	
現在(令和6年7月1日現在)の他機関との連携		・在宅患者や外来患者のうち入院を必要とする患者は、 たむら市民病院へ紹介する。 ・緊急性のある患者は、星総合病院へ紹介する。	
現在(令和6年7月1日現在)の自施設の課題		・医師と看護師の人員不足のため、入院を再開できない。 ・救急医療及び災害医療に対応することも困難である。スタッフの教育訓練も行っていない。	
R7年(2025)において地域で担う役割		・外来診療を中心に患者の健康管理を継続する。 ・通勤困難患者は訪問診療により状態を観察する。 ・救急患者の受け入れは原則不可とする。	
R7年(2025)において圏域内他の医療機関に果たしてほしい役割		・施設入所者が急変した際の入院受入(特に土日・時間外)	
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		・へき地医療(在宅医療)	
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応		・発熱外来	
R7年(2025)の他機関との連携		・基幹病院として位置づける星総合病院と当所の後方支援を担う たむら市民病院との垂直連携を図る。 (基本的には) ・在宅患者や外来患者のうち入院を必要とする患者は、 たむら市民病院へ紹介する。 ・緊急性のある患者は、星総合病院へ紹介する。	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		・入院は休止中のため、日直・当直は行わない。 ・予約制を導入し、患者受診の偏在を調整している。	
建物の建替え、改修予定		・建物は30年以上経過しているが、建替えの時期は未定。 ・空き家となっている医師住宅(1棟)の解体予定。	
高額医療機器の購入		・今後5年間は、購入及び更新の予定なし。	
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など		・今後も医師と看護師の確保は困難であると予想している。 ・土日・時間外の施設入所者や在宅患者への対応について、 圏内の医療機関と密に連携してゆきたい。	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目			
病院名		石塚医院	
R5.7.1現在の病床数(総数)	18	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	18
・高度急性期	0	・高度急性期	0
・急性期	0	・急性期	0
・回復期	0	・回復期	0
・慢性期	0	・慢性期	0
・休床	18	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)	18 看護師数が足りれば解消する
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容			
診療科目(令和6年9月19日現在)		内科・小児科	
職員数(令和6年9月19日現在)		5名	
現在(令和6年9月19日現在)、自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)		一般外来、発熱外来のみ	
現在(令和6年9月19日現在)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		なし	
現在(令和6年9月19日現在)、自施設の担っている新興感染症等対応		発熱外来(医療措置協定済)	
現在(令和6年9月19日現在)の他機関との連携		公立小野地方総合病院	
現在(令和6年9月19日現在)の自施設の課題		看護師不足	
R7年(2025)において地域で担う役割		かかりつけ医として	
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割		なし	
R7年(2025)、自施設の担っている政策医療(5疾病5事業、在宅医療)		なし	
R7年(2025)、自施設の担っている新興感染症等対応		発熱外来(医療措置協定済)	
R7年(2025)の他機関との連携		不明	
R6(2024)からの働き方改革への対応について		なし	
建物の建替え、改修予定		なし	
高額医療機器の購入		なし	
今後の自施設の課題、不安要素、他医療機関との連携希望、など		医師の高齢化	

病院・診療所の2025年における対応方針

項目					
病院名		医療法人青嶋会 すずきレディースクリニック			
R5.7.1現在の病床数(総数)	19	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	19		
・高度急性期		・高度急性期			
・急性期	19	・急性期	19		
・回復期		・回復期			
・慢性期		・慢性期			
・休床	なし	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)			
病床機能の変更を予定する場合、具体的な変更内容	なし				
診療科目(令和 5年 10月 1日現在)	産科、婦人科				
職員数(令和 5年 10月 1日現在)	医師 常勤1名 非常勤7名 助産師11名 看護師5名 看護助手2名 医療事務5名				
現在(令和 5年 10月 1日現在), 自施設の担っている診療実績(令和4年度実績)	主に低リスク妊娠婦の妊娠、分娩管理、一般婦人科診療 令和4年度(4月～翌3月) 分娩件数 562件 うち帝王切開 69件 平均外来患者数 38.5人/日				
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている政策医療(5疾患5事業, 在宅医療)					
現在(令和 年 月 日現在), 自施設の担っている新興感染症等対応					
現在(令和 5年 10月 1日現在)の他機関との連携	太田西ノ内病院、寿泉堂総合病院、星総合病院、総合南東北病院、坪井病院、公立岩瀬病院、福島県立医科大学附属病院と連携して診療				
現在(令和 5年 10月 1日現在)の自施設の課題	現在常勤医師1名で診療を行っており、医師の負担が大きい。数か月以内に常勤医師の増員を予定している。 また、看護師、助産師も子育てをしながら働いている職員が多く、夜勤などの負担が大きい。人員を増員したいが、各施設ともに人員不足であり、採用が容易でない。				
R7年(2025)において地域で担う役割	低リスク妊娠婦の妊娠、分娩管理および一般婦人科診療				
R7年(2025)において圏域内の他の医療機関に果たしてほしい役割	ハイリスク妊娠婦の妊娠、分娩管理、手術を要する患者の婦人科診療				
R7年(2025), 自施設の担っている政策医療(5疾患5事業, 在宅医療)					
R7年(2025), 自施設の担っている新興感染症等対応					
R7年(2025)の他機関との連携	現在と特に変更の予定はない				
R6(2024)からの働き方改革への対応について	既に宿日直許可を取っている。常勤医師の増員やIT化による診療の効率化。併せて医師以外の看護従事者、医療事務などの効率化、生産性の工場を図りたい。				
建物の建替え, 改修予定	スプリンクラーの導入を計画している				
高額医療機器の購入	令和5年度の補助金にて保育器、インファンティウォーマーを購入予定。現在当院で保育器2台、インファンティウォーマー2台稼働しているが、ともに開院時に他院から譲渡されたものであり、来年度以降も更新が必要である。				
今後の自施設の課題, 不安要素, 他医療機関との連携希望, など	短期的には医師、助産師、看護師の人員の確保が課題。また、開院時に他院から譲渡された医療機器はすでに耐用年数に近くなっているが、更新が必要であり、更新に多額の費用がかかる。長期的には少子化、分娩数の減少による経営の不透明性が問題。令和7年度以降分娩の保険適応が予定されており、それらが経営に与える影響が不明。				

病院及び有床診療所の病床数等(令和6年10月31日現在)

番号	病院名	R6.10.31現在の病床数(総数)	・高度急性期	・急性期	・回復期	・慢性期	・休床	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	・高度急性期	・急性期	・回復期	・慢性期	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
1	医療法人 創流会 朝日病院	30		30				30		30			
2	公益財団法人湯浅報恩会 寿泉堂香久山病院	199			51	148		199			51	148	
3	医療法人社団新生会 南東北第二病院	156		105	51			156		105	51		
4	医療法人明信会 今泉西病院	158		71	45	42		102			60	42	56 * 令和7年4月以降に返還予定
5	医療法人慈繁会付属土屋病院	80				80		80				80	
6	医療法人明信会 今泉眼科病院	60		38			22	60		38			22 統合計画延期(具体的日程は未定)
7	奥羽大学歯学部附属病院	22		22				22		22			
8	一般財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院	1,036	86	698			252	895	86	698	60		51 ※51床 内科系病床の拡充検討 (結核モデル病床を含む病棟の返還も検討)
9	総合南東北病院	461	22	439				461	22	439			
10	一般財団法人太田総合病院附属太田熱海病院	399			164	57	102	76	319		164	57	51 47 医師及び看護師等の労働力不足により、止むを得ず休床に至った。以後、関係各所に働きかけを行い要員確保に努めたが、引き続く人口減少、労働者不足を背景に要員を確保することが非常に困難である。また、熱海・湖南地区の人口減少からも休床病床の当該地区での必要性も低下しており、病床の見直しが必要である。療養病床については確保病床として運用してきたが3月末で終了となる。現時点では離職した要員の確保や確保病床に移行する前の状態に戻す病棟改修等は困難であり療養病床48床を返上したい。返上後、当該病床には今後の整形外科診療の再開に備え、一般病床の休床分57床を移行したい。現在休床中の回復期32床と療養病床48床の計80床を返上する見通しである。
11	一般財団法人慈山会医学研究所付属坪井病院	179		110		18	51	179		110		18	51 (看護師不足のため、見通しは立っていない)
12	寿泉堂総合病院	305	6	299				305	14	291			
13	郡山市医療介護病院	40				40		40				40	
14	医療法人郡山病院	41				41		41				41	
15	公益財団法人星総合病院	一般病床 415床(他 に精神科 15床)	14	341	60			一般病床 415床(他 に精神科 15床)	20	335	60		
16	医療法人佐藤胃腸病院 佐藤胃腸科外科病院	120				120		98				98	
17	福島県総合療育センター	90		50		40		90		50		40	
18	医療法人社団ときわ会 日東病院	36		36				36		36			
19	郡山医療生活協同組合 桑野協立病院	104			60	40	4	104			60	40	4

番号	病院名	R6.10.31現在の病床数(総数)	・高度急性期	・急性期	・回復期	・慢性期	・休床	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	・高度急性期	・急性期	・回復期	・慢性期	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
20	医療法人 平心会 須賀川病院	114		114				114		114			
21	公立岩瀬病院企業団 公立岩瀬病院	335 (感染症病床6床)		225	48		56	335 (感染症病床6床)	9	216	48		56
22	医療法人三愛会 池田記念病院	142		56	86			142		56	86		
23	南東北春日リハビリテーション病院	60			60			60			60		
24	独立行政法人国立病院機構福島病院	303			100	120	83	303		100	120	83	現在、医師数の不足により休床としているため、今後、医師の確保状況に応じて運用病床とする
25	たむら市民病院	32		20	12			32		20	12		
26	ひらた中央病院	142		36		106		142		36		106	
27	三春町立三春病院	86		31	15	40		86		31	15	40	
28	公立小野町地方総合病院	119		60		59		119		60		59	
29	医療法人 八木眼科医院	8		8				8		8			
30	郡山整形外科・リハビリテーション科	19				19		19				19	
31	医療法人 たなかレイースクリニック	12		12				12		12			
32	南東北眼科クリニック	18		18				18		18			
33	医療法人慈繁会付属トータルヘルスクリニック	15		15				15		15			
34	ぐっすりーぶクリニック	1		1				1		1			
35	医療法人 美術館通りクリニック	0						0					
36	医療法人宣誠会 古川産婦人科	19		19				19		19			
37	医療法人 仁正会 塚原産婦人科内科・外科医院	15		15				15		15			
38	一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 南東北がん陽子線治療センター	19		19				19		19			
39	医療法人エイレイテュニア 岡崎バースクリニック	19		19				19		19			
40	今泉須賀川医院(眼科)	13		13				13		13			
41	医療法人崇敬会 清水医院	15			15		15				15		
42	こじま眼科	5		5				5		5			
43	医療法人健山会 船引クリニック	14					14	14					14 コロナ感染増加傾向のため継続コロナの状況により来年度再開の見通し
44	田村市立都路診療所	19					19	19					19床(数年以内に開設予定の市民病院へ移行する予定)
45	石塚医院	18					18	18					18 看護師数が足りれば解消する
46	医療法人青鷗会 すずきレディースクリニック	19		19				19		19			

番号	病院名	R6.10.31現在の病床数(総数)	・高度急性期	・急性期	・回復期	・慢性期	・休床	R7.7.1現在の予定病床数(総数)	・高度急性期	・急性期	・回復期	・慢性期	・休床(有りの場合、解消の見通しについて詳しく記載してください)
合計		5,506	128	3,108	645	1,030	595	5,207	151	3,014	720	957	421
R6. 10. 31現在との増減数								-299	23	-94	75	-73	-174
	令和7年必要病床数(県中医療圏)							4,643	469	1,640	1,404	1,130	
	基準病床数(県中医療圏・第8次福島県医療計画より)	5,244											

* 病床数(総数)は、休床を含み感染症病床及び精神病床を除いている。

令和5年7月1日以降の変更。